

平成 29 年度茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 概要

開催日時	平成 29 年 8 月 22 日（火） 14 時 00 分 ～16 時 10 分
開催場所	茂原市役所 502 会議室
出席者	推進会議委員 9 名（所用のため欠席 5 名） 永長副市長、事務局（十枝企画財政部長、渡部企画政策課政策推進室長、米倉企画政策課主査、錦織企画政策課主査）、担当課（健康管理課小泉主査、総務課菅谷課長補佐、深山主査、学校教育課藤乗主査、美術館・郷土資料館舛田係長、都市整備課細谷係長、農政課芝崎主査）
会議次第	1. 開会 2. 委員紹介 3. 挨拶 4. 協議 ① 「茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の見直しについて ② 平成 28 年度地方創生事業について (ア) 交付金事業の効果検証について (イ) 各種施策について ③ 平成 29 年度交付金事業等について ④ その他 5. 閉会
会議要旨	3. 挨拶
永長副市長	委員の皆様おかれましては、お忙しいところご出席いただきありがとうございます。 茂原市では平成 27 年度に総合戦略を策定しており、特に茂原の地域性という意味では、雇用を確保して子育て支援につなげる取組みを行ってまいりました。雇用の確保につきましては、おかげさまをもちまして、県と共同で進めております茂原にはる工業団地には既に 3 つの企業の進出が決まっております。子育て支援施策につきましても、産前産後サポートセンターをつくり好評を得ているところです。また、雇用と子育て施策以外にも、人の交流・まちの賑わいという部分では、本日、市民体育館脇相撲場で鋳山部屋の「ふれあい相撲が行われており、子供たちにとって、スポーツアスリートを身近に感じるよい機会となっております。他にも三世代同居等支援事業な

ども実施しておりますが、地方創生は行政だけが頑張ってもうまくいきません。現在、新しい市民会館の建設に向けて、市民を交えたワークショップを行っておりますが、このように行政と市民が一緒になって取り組み、意見を交換し、協働していくことが大切であると考えておりますので、委員の皆様にもそれぞれの立場から忌憚のないご意見をいただきたいと存じます。よろしく願いいたします。

4. 協議

① 「茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の見直しについて

概要説明

事務局から資料に基づき説明

【主な質疑応答】

◆資料1 茂原市まち・ひと・しごと創生総合戦略新旧対照表について

- それでは総合戦略の見直しについて、ご意見やご質問があればお願いしたい。(意見なし)
- 母子健康包括支援センターの設置については、平成30年に向けて動いているところである。
- 総合戦略の見直しについてご承認いただける方は挙手をお願いします。(全員挙手)
- 見直しについて全員挙手のため承認とする。

②平成28年度地方創生事業について

(ア) 交付金事業の効果検証について

(イ) 各種施策について

概要説明

事務局から資料に基づき説明

【主な質疑応答】

◆(ア) 交付金事業の効果検証について

資料2 平成28年度地方創生関連の交付金について

- それでは平成28年度地方創生関連事業について、ご意見やご質問があればお願いしたい。

○地方創生加速化交付金について

- 転出者はどのくらいいるのか。また、人口が減らない対策をとっている

議長

議長

委員

のか。

事務局

- 本市に限ったことではないが、15歳から30歳までの転出が多い。このKPIに教育が直接つながるものではないが、この世代に対しての施策にはなると思っている。

平成28年度 転入者2,968人 転出者2,768人 200人増

平成27年度 転入者2,652人 転出者2,863人 211人減

KPIは転出者のみを対象としているが、転出入者で見るとH28年度は増加している。転入者はいすみ市等近隣市から入り、転出者は千葉市へ出て行く傾向がある。しかし、自然減で年間約500名ずつ減っているため、市の人口は減少している。

委員

- KPIについて、転出を含めたトータル的な表現にした方がよい。また、事業の評価について「効果があった」としているのは、転入者が転出者上回ったためか。

事務局
議長

- 事業の評価については、一体的に進める事業と併せて判断している。
- 学校図書環境整備により、児童生徒が主体的に調べ学習を進めるようになり、さらに地域を学び参加していくという「学びと参加」がスパイラル的に動いて行くのが理想であり、良い環境が整いつつある。運用について教えてもらいたい。

事務局

- 整備をしたのは今年の1月から3月にかけて。モデル校4校にデータベース化と学校司書の配置を行った。学校司書については、週に2~3日配置しており、調べる環境が整った。また、配置しただけでも子どもたちにとっては新鮮であり、図書を借りなくても、司書と話をするために図書室に向かうなど変化がみられた。実際、本をよく借りるようになっている。
- 1校54万円で本の購入もしている。百科辞典も古いものであったが購入したことで、学習指導要領に沿って指導できるようになった。見違えるような変化があった。

委員

- KPI「転入者数」について、この事業の結果として転入者数と結びつけるのは無理があるのではないか。また、次のKPI「読解力の向上」について、全国の学力平均を100として、本市のH28年度末目標値を99としているが、妥当なのか。

事務局

- 転入者数の増についてはこの事業だけで達成するものではなく、一体的に進める事業と併せてKPIを達成して行くものである。
- 読解力の向上については、学力テストの読解力部分について分析を行い出した数値である。徐々に上げて行き、平成31年度末までに104まで上げるとしている。平成27年度が98なので平成28年度末の目標を99としている。

議長

- KPIについては、この事業のみで増加させるものではない。KPIは複合的に考えたもの。因果関係がどこまであるかというのはなかなか難しい

のではないか。

委員
事務局
委員
事務局

- 読解力指数について一番上と一番下の自治体はどこか？
- 茂原市で独自に出した数字なので把握していない。
- 委員として何を求められているのか分からない。
- 意見を伺う場所としている。数字で判断するものではなく、総体的に判断してお墨付きをもらいたい。国へ報告する必要もある。

議長

- 国は交付金を出したことで、KPI の効果を検証し、事業が進んでいるか確認をしている。報告の仕方に問題があると思う。委員の皆様には、結果を出していくために何をやっていったらよいか等の意見ももらうとよいのではないか。
- 加速化交付金関連事業について、効果があったものとして国に報告してよいか伺う。ご承認いただける方は挙手をお願いする。(全員挙手)
- 全員挙手のため承認とする。

○地方創生推進交付金について

委員
事務局

- KPI「販路拡大の取り組みの支援数」の実績値 8 件の内訳について。
- 茂原市中小企業者等振興総合支援事業の中の「展示会等出店事業」が 3 件（出店料やブースの借り上げ料として補助率 1/2 以内で上限 30 万円）また、「情報発信事業」が 5 件（ホームページ等を新規に制作、又はリニューアルした場合で、補助率 1/2、上限 15 万円）、合計 8 件となっている。

委員
事務局

- 地図情報共有システムの構築とはどのようなことをしたのか。
- 昨年度整備したのは、市役所内の地図情報システムを一元管理するための統合型地図情報システムと、市民の皆様へ情報を公開するための公開型 GIS、市民の皆様がご自身で簡単に作れる仕組みのマッピングドロップであり、この 3 つをホームページ上で公開している。これが大きく 3 の柱になる。わがまちガイドというものが公開型 GIS になるが、これには市が持っている地図情報の防犯情報や公共施設の位置情報、道や観光資源の情報など、ありとあらゆる公開できる情報を一元化し公開している。これらを商業や教育等に活用してもらおうというものである。

委員
事務局

- 市民向けのイベントとはどのようなことをやるのか。
- マッピングドロップはタブレットで操作できるため、それを活用し、3 月に市民の皆様へ茂原公園で、咲いている花の情報などを地図上に落とす等のイベントを行った。他にも、学びと参加の一環として、市民活動団体が行う「もばちやいるアカデミー」で企業の仕事を経験しながら地図を作成してもらった。
- 最終的に目指すところはオープンデータを企業に活用してもらい、新たな起業につなげてもらいたいと考えている。

議長

- 一昔前の情報公開のようなもの。市の持っている様々な情報をオープン

データとして公開する。ビジネス、教育等に活用してもらうなど、どう活用して行くかは未知数。そのような方向に動き出す第一弾となっている。

- 委員
事務局
- アクセス数はわかるのか。
 - わがまちガイドについて、パソコンでの閲覧数は、7月 1,998名、スマートフォン 117名となっている。
- 委員
事務局
- 実際に何に活用されたかわかるか。
 - 何に活用されたかまではわからないが、一番閲覧数が多いのは景観資源、2番目は都市計画となっている。
- 議長
事務局
- 今後まちづくりの戦略ということで、コンテンツは増やしていくのか。
 - コンテンツを増やすために、庁内検討会を立ち上げていく。出せない情報もある。独居老人などの情報も持っているが防災上はよいが、防犯上の問題があるなど、難しい面もある。検討しながら増やしていきたい。
- 議長
- 個人情報等の難しさはあるが、データベース作りについて例えば、どんな職種、業種があるのかの整理はもちろん、もっと戦略的に行うには「茂原市の子育てについて、うちの会社はこんなことができる」等を企業に考えていただき、活用してもらうこともできるのではないか。
- 事務局
- 現時点では警察機関との連携により、交通事故情報を市民の皆様にお知らせしている。仕組みはできているので、今後は民間企業と連携していきたいと考えている。
- 委員
事務局
- 会社の案内ビデオ等を入れさせてもらえるのか。
 - 会社の PR 的なものについては難しい。オープンデータを活用して、企業の魅力を発信するなど上手く使ってもらいたい。
- 議長
- CSR 企業の社会的貢献、そういった取り組みを可視化するのもよいのではないか。
 - KPI「企業間のマッチング支援数」の実績が 0 なのはなぜか。
- 事務局
- 昨年度はシステムの構築だけなので 0 となっている。平成 29 年度末の目標は 10 件としている。
- 委員
- ビジネスマッチングについて、金融機関はニーズを持っている。全国への発信もできる。ぜひ銀行を活用もらいたい。
- 議長
- 異業種間のマッチング等、色々機会をつくることが大切である。
 - 国への報告も踏まえて、推進交付金関連事業について、効果があったものとして国に報告してよいか伺う。ご承認いただける方は挙手をお願いします。(全員挙手)
 - 全員挙手のため承認とする。

◆ (イ) 各種施策について

資料 3 茂原市総合戦略施策一覧について

- | | |
|----------|--|
| 議長 | <ul style="list-style-type: none"> • それでは茂原市総合戦略施策について、ご意見やご質問があればお願いしたい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> • P3 1.産業が力強く成長するまち ②中、「関係機関との連携強化と切れ目のない支援の実施」とあるが、どこと連携しているのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> • 市内の金融機関と連携している。創業塾については商工会議所に委託して行っている。切れ目のない支援とは、商工観光課がワンストップ窓口となって関係機関につないでいくということ。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> • P7 ②中、「オリンピック、パラリンピックへの取組」とあるが、世界のメディアが向こうから来てくれる最後のチャンスと捉え、効果的に発信する方法を民間含めて戦略的に考えていくべきである。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> • 長生地域においては長生振興事務所を中心に検討会を行い、現在までに「外国人に対する語学ボランティアの募集」、「サーフィン勉強会」等を行っている。今後も年に数回検討会を開催する予定である。長生地域だけではなく、いすみ、大多喜を含めて何ができるか検討したい。 |
| 委員
議長 | <ul style="list-style-type: none"> • おもしろい地域だと発信したい。この機会しかない。 • オリパラまでではなく、その後の事も考えて、先を見通して知恵を出す段階である。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> • P6 3.市民の活力と賑わいにあふれるまち ③中、「茂原ならではの移住関連情報の一元的な収集と提供」について、チラシ等はどこに配布したのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> • 東京都内の移住交流情報ガーデン、ふるさと回帰支援センター等に配布している。チラシには移住者のインタビュー等を掲載している。移住支援として空き家バンクも行っている。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> • 移住に関してNPOはないのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> • ない。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> • P7 ③中、「フィルムコミッションの推進」とあるが、実際に市内でロケやっているのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> • 6月にテレビドラマ「コードブルー」の第1話の収録を行った。昨年度末には来年秋公開予定の映画撮影も行っている。ロケに関して問合せが増えている状況である。全てが撮影までつながるわけではないが、シティプロモーションの一環として今後も積極的に取組んでいきたい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> • ロケ地めぐりはやらないのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> • 観光資源につなげるため、今後検討していく。 |
| 議長 | <ul style="list-style-type: none"> • 移住を促進するには、移住を検討している方に茂原のイメージを膨らませる橋渡しを行わなければならない。旅行代理店による移住検討ツアーや、移住者との交流会等を行っている自治体もある。 • 空き家バンクの登録件数を増やすには、所有者への働きかけが必要である。一例として、固定資産税の納付書にチラシを入れている自治体もあるようだ。戦略的な検討が必要である。 |

- 委員
- 資料 3 の構成として、5 カ年計画なので一番効果があったところがあるようにしてもらいたい
 - P4 2.結婚・妊娠・出産・子育てを応援するまち ②中、周産期～乳幼児期における保健センターでの相談支援件数が目標値 750 件に対して H28 年度実績 2,160 件と急激に増加しているのはなぜか。
- 事務局
- 昨年度の地方創生交付金を使って様々なセミナーを開催した。また、やる気のある方たちに声を掛けて、保健センターの中に子育てを考えるサークルを何個か立ち上あげた。その方々と一緒に考える機会を持つようにした。さらに、妊娠前から気軽に相談できる身近な機関になってもらいたいとの事から、妊娠届出時に全ての妊婦さんに対して、保健師が面接を行い、小学校入学までイメージできるようにしたところ、相談が飛躍的に増えた。
 - 医者と行政が協力して支援することも行っている。県内でも高評価を得ている。直営は県内で本市のみ。
- 議長
- 皆様のご意見は次年度以降の参考とさせていただきます。(今年度の変更は無し)

③平成 29 年度交付金事業等について

概要説明

事務局から資料に基づき説明

【主な質疑応答】

- 委員
- 地方創生拠点整備交付金の起債は採算面を考えているのか。
- 事務局
- 考えている。
- 委員
- 農産物直売所を建設して何を絡めていくかが大事であるが、ソフト事業は何をするのか。
- 事務局
- 新たな農産物の生産、加工、販売についての調査研究セミナーの実施や、後継者の育成等について勉強会を行うなど、ハード事業と一体に取り組み、魅力ある農業の起爆剤としていく。
- 委員
- 地方創生推進交付金事業の実施事業にある「ドローン利活用調査業務委託」とは何をするのか。
- 事務局
- 市内にある企業の協力を得て、操縦体験やセミナーの実施を考えている。話題性も高く、将来的に希望を持てる事業である。イベントは遊びだけではなく、企業が利活用を図るためのセミナー等も行う予定である。双葉電子工業株式会社とは災害協定を結んでいる。
- 委員
- ドローンについて、千葉市は特区を取り高層マンションへの宅配の実証実験を行っている。茂原は何をやっていくか。
- 事務局
- イノシシ対策や測量等、せっかく双葉電子工業株式会社が本市にあるので、イベントの開催により様々な可能性を探りたいと考えている。

④その他

【主な質疑応答】

議長

- その他、何かご意見やご質問があればお願いします。
- 総合戦略は5カ年の事業なので、この年はこういうことをやっている、見えるような資料にするとよいのではないか。流れがわかるような資料にしてもらいたい。

事務局

- 表記については来年度、変更していく。
- 欠席者の意見も聞いてHPに掲載する。

以 上